

コウヨウザン共同試験地 設定に向けて

四万十署管内のぼう芽再生林を

二月九日（火）局において、「コウヨウザン共同試験地設定会議」を開催しました。会議には、森林総合研究所 林木育種センター等（三名）、四万十署、局から業務管理官、計画課、保全課、森林整備課、資源活用課・森林技術・支援センター、技術普及課職員が出席しました。（写真）

コウヨウザンは常緑針葉樹で、ぼう芽更新する特性を持ちます。



四万十署管内 辛川山国有林内で、昭和八年に植栽、昭和六三年に伐採しています。ぼう芽再生林として現在に至り、日本国内では希少な再生林として注目されています。

会議では、コウヨウザンのDNA鑑定等を通じて、コウヨウザンのぼう芽や成長調査等を行うことを目的とした試験地として設定に向けた課題を話し合いました。

参考「コウヨウザンのぼう芽更新」は、平成元年度技術開発研究考案発表集に掲載）

里帰りした 校庭のアカマツ

高知市立第六小学校

高知市立第六小学校の校庭に植えられているアカマツ（樹齢およそ百年超）の樹勢が衰えているとの相談が、校長先生から技術普及課へ寄せられました。このため、林木育種センター関西育種場に昨年、1月29日に穂木の採取を依頼（グリーン四国 2015年2月号参照）。このたび、接ぎ木された穂木の里帰り植樹が2月9日に第六小学校で開催されました。

当日は、アカマツの下で、関西育種場から苗木の贈呈が行われ、技術普及課から植樹の指導等を行いました（写真上）。



植樹は、昨年穂木を採取した5・6年生が、各班に分かれて記念植樹を行いました。植樹後は、植樹した児童名が入った木札も標示しました。（写真下）



この事業は、林木育種センター関西育種場が取り組んでいる巨樹・名木等の遺伝資源のクローン増殖サービス「林木遺伝子銀行110番」に小学校から申請して受理されました。



「常緑樹も落葉する」って

サクラやイチョウ（写真上）などの落葉樹は、秋から冬にかけて全ての葉を落とす。



では、シヤカシ・ツバキなどの常緑樹は落葉しないのか。

常緑樹も落葉する。ただ、落葉樹のように一斉に落葉しないので、見た目にはいつも緑色の葉を付けた木に見える。ふつう、常緑樹では、新しい葉が出ると同時に古い葉を落とす。



落ち方もユズリハ（写真下）やクスノキのように新しい葉の出る4月、5月ごろ一斉に落葉するものがあるが、多くの場合、一年中落葉している。（街の自然観察 矢野亮著より）

編集後記

2月、局内でもインフルエンザが。
3月下旬、サクラの開花予想も。
季節と上手につきあい 体調管理を。